

時の動き

死者たちが生者を動かす

弁護士 内田 雅敏



現在いまという横軸と

歴史という縦軸

民主主義はポピュリズムを介してフアシズムに陥る危険性を内包している。そうならないためには、物事を現在いまという横軸だけでなく、歴史という縦軸も併せて立体的に観なければならぬ。

「1945年6月26日、国連憲章がサンフランシスコで署名されたとき、日本はただ一国で40以上の国を相手に絶望的な戦争を戦っていました。戦争終結後、われわれ日本人は、超国家主義と軍国主義の跳梁ちやうりやうを許し、世界諸国民にもまた自国民にも多大な被害をもたらしたこの戦争を厳しく反省しま

した。

「小淵総理大臣は、今世紀の日韓両国関係を回顧し、わが国が過去の一時期、韓国国民に対し、植民地支配により多大な損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、これに対し、痛切な反省と心からのおわびを述べた」。

前者は1985年の中曽根首相の国連総会演説、後者は98年の小淵総理大臣と金大中韓大統領による日韓共同宣言である。この二つの間に「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩み、国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によ

り、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害と苦痛を与えました」と謳った95年の村山首相談話があり、中曽根首相演説の前、72年「日本側は、過去において、日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する」と謳った田中角栄首相と周恩来総理による日中共同声明がある。

国内外に発せられたこれら声明、演説の淵源えんげんは、前文で「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きることのないやうにすること決意し」と謳った日本国憲法にある。いずれも戦争体験者



ソウルでの尹大統領（当時）弾劾のデモ
2025年2月、筆者が撮影。

世代によるものであり、戦争への反省
とりわけ中国に対する贖罪意識があっ
た。今「台湾有事」が喧伝され、日中
の軍拡派は、互いに不信をぶつけ合い、
それをてこに軍拡を押し進めるとい
う、敵対的相互依存関係にある。

過去が現在を動かす

韓国憲法前文に「三・一運動によ
つて建立された大韓民国臨時政府の法
統及び、不義に抗拒した四・一九民主
理念を継承し」とある。韓国建国の礎
は、日本の植民地支配に抵抗した19
19年の3・1独立運動、李承晩イ・スンマンの独
裁政権に抗した1960年の学生革命
にある。今、その前文に、1980年
軍政に抗した光州事件が書き込まれよ
うとしている。

3・1独立運動が1948年制定の
韓国憲法に書き込まれるまでに29年
の歳月を、4・19民主理念が198
7年の民主革命によって書き込まれる
までには27年の歳月を要している。
光州事件の抵抗が書き込まれるとし
たら、約半世紀の歳月を経てということ
になる。民衆の運動とはそういうもの
なのだと思う。

本年2月、韓国のソウル光化門前広
場での尹錫悦ユン・ソクニョク大統領（当時）の弾劾を
求める市民集会に参加した。極寒の中、

多くの市民が集まり、軽快な音楽が流
れ、それに合わせて若者たちが体を動
かしていたが、その中に必ず、3・1
独立運動、4・19民主理念、光州事
件、民主革命の歌や演説が織り込まれ
ていた。これらの歌や演説を聞きなが
ら、私は昨年度のノーベル文学賞を受
賞した韓国の作家韓江さんの「過去が
現在を動かす」という言葉を反芻して
いた。彼女は泣きながら作品を書いて
いるという。死者たち（先人）の声が
現在を生きる者を動かしているのだ。
現在を生きる私たちもまた、生ある
限り、80余年前、アジアで2000
万人以上、日本で310万人の非業・
無念な死を強いられた人々、そして戦
後の反戦・平和運動を担いながら逝っ
た先人達、の声に泣きながら耳を傾け
子どもや孫、まだ生まれてきていない
未来の子どもたちのために反戦平和の
闘いを継続しよう。

（うちだ まさとし）